



企業における働くことの意味

令和7年2月3日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

良い企業は必ず働くことへの美徳を有する。悪い企業は働かない企業なのである。

働くことは結果を与える。それが良い企業サイクルなのである。

そして優れた企業経営判断は、より優れた現実を可能とできる。

これらが、正しい企業構築であり、時代と未来という新しい可能性を自己とすることなのである。

これら現実を有することは必ず優れた企業倫理性を要求されるのである。そのため経営における判断がこれらの実現を可能とできるのである。

これらは日本の企業風土における基盤であり、グローバリズムにおいても、良い企業は必ずそれら現実を有するのである。

これらが創造性という未来への挑戦の可能とすることは正しいと考える。

これらは善のサイクルであることは正しい。自主労働は必ずこれら正しい意欲における結果なのである。これらはまた時代性における飛躍の正しい基盤なのである。

これらは先端性への従属でない、企業の独立性や理念における正しい経営であり、新たな飛躍の基盤なのである。

これら企業の絶対的な健全性は、その企業風土の優秀さであり、社員の正しい意欲は未来の実現を可能とするのである。

これらが優れた生産性や効率性を自己とする時代性を許容するとき、その利益性の構築が健全であり、はるかに優れあることができるのである。それが企業経営の健全性なのである。

